

2022.8.14 年間第 20 主日

イエスの側に立て

ルカによる福音書 12:49-53

「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか。しかし、わたしには受けねばならない洗礼がある。それが終わるまで、わたしはどんなに苦しむことだろう。あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うのか。そうではない。言うておくが、むしろ分裂だ。今から後、一つの家にも五人いるならば、三人は二人と、二人は三人と対立して分かれるからである。

父は子と、子は父と、
母は娘と、娘は母と、
しゅうとめは嫁と、嫁はしゅうとめと、
対立して分かれる。」

説教

わたしは火を投ずるために来た。平和をもたらすためではない、むしろ分裂だ。ルカ福音書はこのようにイエスのことばを伝えます。

疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。

マタイ 11:28

このような優しいことばをかけてくださるイエスとはまるで別人です。いまの聖書解釈の主流は「決断を迫る厳しいイエス」のことばと解釈しています。神の国を信じるか、それとも信じないのか、という二つに一つだとイエスは決断を求めているという意味です。イスラエルは西暦 70 年にローマ帝国によって滅ぼされます。そして生き残ったイスラエル人は殺されたり逃げたり追い出されたり、散り散りバラバラになりますが、西暦 300 年ごろにキリスト教はローマ帝国の国教となり、イエスのことばは現実となります。この史実をふまえて「決断を迫る厳しいイエスのことば」という解釈は聖書

解釈の主流となっています。イエスの願いを受け入れた多くの民がローマ帝国を動かしキリスト教が国教と認められたのは、イエスの決断に人々が応答した結果だというわけです。しかし、その後の歴史はキリスト教化されたローマ帝国も東と西に分裂しついには滅亡します。

この分裂の歴史は国家もキリスト教も終わりを迎えることなく現在も続いています。二つに一つだ、さあどっちを選ぶ、と単純に割り切ってしまえば、今ウクライナで続いている戦争もヨーロッパを舞台にした東と西の分裂戦争のつづきです。

**わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。その火が既に燃えていたらと、
どんなに願っていることか。ルカ 12:49**

「分裂をもたらす火」という主流の解釈に対して「火」とは聖霊を指しているという解釈があります。「火」は鉄砲や核ミサイルを意味するのではない。「地上に火を投ずる」というのは鉄砲や核ミサイルをぶっ放すという意味ではなく「地上に投ずる火」とは「聖霊を与える」です。イエスの願い「その火が燃えていたらと」は戦火が燃え広がるという意味ではなく、聖霊による火が一人ひとりの心の中で燃えているという意味だという解釈です。「火＝聖霊」解釈の方が人間の血が直接には流れないので穏やかで多くの人に好まれそうです。

人類は多くの戦争をおこない、大勢の人の血を流し続けてきました。二つに一つだ、どちらかを選べ決断を迫っているとイエスのことばをまともに受けとめるとろくなことにはなりません。ルカ福音書の12章がつたえるイエスのことばとエピソードはサラッと受け流すていどでいいのだとわたしはつくづく思います。

二つに一つじゃなくてもいいじゃないか、生まれも育ちも違うのだから違いがあるのは当たり前。聖書のどこを探してもこのようなみことばはありません

ん。でもね、まさかとは思いますが「聖書に書かれていないイエスのことば」このようなタイトルのいかにもあやしい古文書が見つかっていないだけかもしれません。

使徒信条

わたしは、天地の造り主、全能の父である神を信じます。

また、その独り子、わたしたちの主イエス・キリストを信じます。

主は聖霊によって宿り、おとめマリヤから生まれ（ここで礼をする）ポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちからよみがえり、天に昇られました。

そして全能の父である神の右に座しておられます。そこから主は生きている人と死んだ人とを審くために来られます。

また、聖霊を信じます。† 聖なる共同の公会、聖徒の交わり、罪の赦し、体のよみがえり、永遠の命を信じます アーメン

共同祈願

すべてを導いてくださる神に信頼して祈りましょう。

- ・ 神のみ旨を生き抜かれたイエス・キリストにならい、わたしたちもへりくだる心と忍耐をもって、信仰の道を歩み続けることができますように。

- ・ 争いや対立を生み出す身勝手な思いから離れ、神の望まれる道を識別して、弱い立場の人々を第一に思う社会を目指すことができますように。

- ・ 真夏の暑さの中、厳しい環境の中で生活し働くすべての人に聖霊の憩いをお与えください。神のことばが、心の平安と明日への力の源になりますように。

- ・ （あなたに必要な祈りを追加してお祈りしてください）

神よ、わたしたちの目を開いてください。

わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン